

第6回 荒川区新庁舎整備基本構想・基本計画策定委員会 議事録

- ・ 日時 令和8年7月9日(木) 10:00～12:00
- ・ 会場 本庁舎5階大会議室
- ・ 出席委員 14名(欠席者4名)

(敬称略)

区分	氏名	役職名等	備考
学識経験者 有識者	坂田 一郎	東京大学 執行役・副学長 工学系研究科 教授	委員長
	橋本 美芽	東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 准教授	副委員長
区議会議員	斎藤 泰紀	自由民主党 荒川区議会議員団	
	土橋 圭子	自由民主党 荒川区議会議員団	
	花澤 昭信	ゆいの会(都民ファースト・国民民主・ あたらしい党・無所属)	
	横山 幸次	日本共産党 荒川区議会議員団	
区民	鳥飼 秀夫	荒川区町会連合会会長	
	富永 新三郎	東京商工会議所荒川支部会長	
	今井 健一郎	公募委員	
	近藤 裕次	公募委員	
	佐々木 かおり	公募委員	
	竹澤 美壽保	公募委員	
	西 終作	公募委員	
区職員	小林 直彦	副区長	

- ・ 傍聴者 4名

1. 開会

2. 委員長挨拶

3. 委員紹介

4. 区民意見の聴取について

(事務局説明)

別紙 新庁舎整備に関するアンケートの調査結果

委員長

基本指針の各項目や本委員会で議論してきた点について事務局にてアンケート調査をした結果を説明してもらいました。

区民の方々の意見がかなり把握できたかなと思います。

ただし、29 歳以下の回答数がかなり少ないので、そこについては留意する必要があると思います。

また、資料の中で年代別のグラフが記載されていますが、以前も議論があったとおり、庁舎の将来にむけた可変性というのでも重要な論点になっています。世代が変わっていくことによって意識やニーズが変化するというのも、質問項目によっては確認できるものとなっています。

それでは、今の事務局の説明につきまして、ご質問、ご意見がある方はご発言をお願いします。

委員

30 ページの問 15 で「新しい区役所では、人々が集える庁舎としていくことを目指しています。」と記載されています。

なぜこの質問のみ、このような記載にしたのか教えてください。区が集える庁舎を目指すというところは、庁内でオーソライズされているのでしょうか。

事務局

今回のアンケートにつきましては、本委員会の中でいろいろ議論された結果、7つの基本指針の1つとして「人々が集える庁舎」ということがあります。

その指針に関連して、こういった意見を区民の方がお持ちかを聞いたもので

ありますので、庁内で「人々が集える庁舎」ということが確定してこのような設問になったわけではありません。

委員

これまで、本委員会で議論していた内容が区民の皆様のアンケートと一致しているところが多くてよかったと思います。

「用事がなくても訪れたくなる空間」というのが27ページにあります。年代別の回答数は少ないですが、29歳以下の回答などを見ていて感じたのは、わざわざ集まる区役所を作るのではなく、ふらっと来ても居場所があるような開放感のある区役所を作った方がよいのではないかと感じましたし、10年後のことを考えて時代をしっかりと捉えながら考えていく必要があると感じました。

その中で、ますますデジタル社会になっていくと思いますので、デジタルを上手に利用しながら、人々が繋がれる、「人がいる」「人の顔が見える」区役所を作れるといいのではないかと思います。

委員

今回の調査では700件の回答があったと説明がありました。

新庁舎は次世代、次々世代が使うもので、区民の合意が重要になってくると思っています。

今回アンケートを最初に実施されましたが、今後、区民からの様々な場面での意見聴取というのは、どのように考えていらっしゃるのかをお聞きしたいと思います。

事務局

今回、アンケートを実施させていただきましたが、今後につきましては、ワークショップやオープンハウスといった方法による意見聴取を検討しております。これらの場におきましても、しっかり区民のご意見を伺える機会を作っていくと考えております。

委員

様々な状況があってアンケートに触れる機会がなかったのか、新庁舎を主に使う世代になってくる29歳以下の回答数が少ないので、今後についてもそういった世代を含めた年代別の意見集約などもぜひお願いしたいと思います。

委員長

今のご意見に関連して、年齢だけでなく、子育て世代など、その人のライフス

タイル毎に、どういう所感をお持ちなのかも調査していく必要があると思っています。

ゆいの森あらかわは、私もよく利用しますが、併設しているカフェは子ども連れの方がたくさん利用されて、他の場所よりも入りやすいと感じているのではないかと思います。

委員

回答数のことで事務局の方にお伺いしたいのが、700件というのは、区が行った他のアンケートと比べてどの程度なのか教えてください。荒川区は22万人ぐらい住んでいる中で、700件というのは割合として少ないのかなと思います。

私も区の公式LINEを登録しているので今回のアンケートが届いたのは把握していますが、登録していない若い人も大勢いると思います。イベントなどに行かないと登録はしないので、周知があまりできていなかったのではないかなという懸念があります。区のホームページを頻繁に見る人も多くはないと思います。

そういった意味では、他のアンケートと同程度の回答数であれば、やれることは少ないかもしれませんが、比較的少ないのであれば、広報の方法を工夫するなどして露出を増やすといいのではと感じました。

事務局

今回は無作為抽出のような形で、区としてアンケート調査を依頼したという形ではありませんので、回答数としては多いとは言えないと考えております。

一方で、結果的には他の自治体と比較すると多い方ではありますので、区といましては、想定よりも多くの方からご回答いただいたという所感です。

今回、30代から40代の回答が多かったのですが、学校の保護者ツールやSNSにも積極的に投稿させていただき、そこから回答数がかなり増えた事実もありますので、お子さんがいる保護者の方からの回答が多かったという印象も受けております。

委員長

私の記憶では、毎年やっている区のGAH（荒川区民総幸福度）調査が回答数1,000件程度と思うのですが、毎年繰り返し実施している調査でそれくらいなので、私の印象としては他の調査に比べて決して少なくはないと思います。

ただ、ご指摘の通り29歳以下の層については、もう少し補強する必要があると思います。

委員

アンケートで29歳以下の回答が少ないということについては、結婚されてお子さんが生まれて、そういうタイミングで区役所の機能を使うようになる方が多数いると推測される中では、何らかの方法でもう少し意見をもらえれば良いと思います。

2つ目として、行政機能をしっかりするということと、区民の方に喜んでいただけるような機能をどう取り入れていくかという部分です。現庁舎は当初6階部分が全て空いていたと聞いていますが、今はいくつかの庁舎に分かれ、職員の皆さんもスペースを融通しながら使っている状況です。

今後はAIの進化などにより使うスペースが減っていく可能性もあることを視野にいれる必要があると思います。

建物の中で、行政機能の充実が一番ですが、容積率などの制限もあると思います。本委員会の中で、どのくらいの建物が建って、今の庁舎機能を維持した上で、区民の皆さんが喜んでもらえる機能が追加できるのか、そのあたりの議論があったかを教えてください。

委員長

重要なお指摘だと思います。最後の建物の容積率等のご指摘については、この後の議事の中で、地図も含めて説明がありますので、そこで合わせて答えさせていただきます。

それでは引き続き、議事5「新庁舎に必要な機能」について、事務局から説明をお願いします。

5. 議事＜建築にかかる詳細検討＞

(1) 新庁舎に必要な機能

- ① 指針3 区民を守る安全・安心の拠点となる庁舎
- ② 指針4 長寿命で可変性のある庁舎
- ③ 指針5 環境に配慮した庁舎

(2) 新庁舎に必要な規模

(3) 新庁舎の配置検討

(事務局説明)

資料1 第6回資料【議題の概要】

資料2 第6回資料のうち

- 1 策定委員会のスケジュール
- 2 今回の検討項目
- 3 新庁舎に必要な機能（考え方とイメージ）

委員

8 ページの部分で気になった点があるので発言させていただきます。1 階と 2 階は河川氾濫が起きた時に浸水するという事だと思いののですが、アンケート結果でも窓口の利用が 1 階、2 階に集中しているという話があったので、水害が起きた時に水に浸かってデータが全部壊れることや書類が全部流れてしまうといったことがないように、実際の執務計画に落とし込んでこれからの計画を立てるのがいいのではないかと感じました。

委員長

今のご指摘に関連して、過去はデータのサーバ設備についてもどこに置くべきかという課題がありましたが、近年ではクラウドになってきているので、そのあたりは考え方も変化してきています。

委員

先日、素晴らしい再開発事例を見てまいりました。品川区の新庁舎が大井町トラックスの西側に隣接して建築中であり、大変驚きました。

品川区がメディアで公表している建築概要を見ますと、本日説明いただいた耐震構造や非常用電源設備、免震構造、ZEB Ready の認証取得、非常用電源は高い位置に設置して浸水への備えを強化するなど、ほぼ同じような考え方となっているようで、大変良いことだと感じたところです。

少し違っていたところが、災害対策の拠点として、館内に帰宅困難者を収容するスペースや、職員のための宿泊機能、応援に来る消防や自衛隊の方々の宿泊機能も中に確保しているようでした。こうしたものは、民間企業の場合は BCP（事業継続計画）があり、災害が起きた場合に事業が継続できるのかという計画があった上で、設備の設置が要求されていると思います。たとえば、宿泊機能となるホテルなどはこの周辺になく、災害対策の司令部として機能しなければいけない職員の皆様が本当に集まれるのかなど、荒川区における BCP と今回の計画との関連性についてご説明いただければと思います。

事務局

区におきましても、災害時における職員の参集計画などを持っているところです。また、詳細な民間事業者による専門的知見を取り入れた BCP の策定につ

いて、今まさに取り組んでいるところです。

首都直下型地震等の災害が起きた場合でも、迅速な災害対策が行えるように、また継続性の高い通常業務についても引き続き行えるように計画を立てております。

帰宅困難者のための一時的な収容部分や、職員が当面帰れなかったりする際のスペースについても、しっかり検討していく必要があると考えておりますし、新庁舎を建てるにあたっては、区民の安全・安心を守ることができるように災害分野の意見もしっかりと含めて検討してまいります。

委員長

引き続き議事５の「新庁舎に必要な規模」「新庁舎の配置検討」について、事務局にて説明をお願いします。

(事務局説明)

資料２ 第６回資料のうち

４ 新庁舎に必要な規模

５ 新庁舎の配置検討

委員長

説明ありがとうございました。資料のとおり 38,000 m²で想定すると、この敷地では何階建てくらいになる予定でしょうか。

事務局

現時点で想定しているのは、地上 12 階から 13 階が限度になるかと考えております。この土地は高さ制限が 60m となるため、それを超えて建てることはできません。また、地下については 1 階または 2 階までと想定しているところです。

委員

資料の中でも防災機能についての説明がありました。よく都心では屋上にヘリポートやレスキュースペースなどがありますが、その辺はどう考えていますか。

事務局

ヘリサインについては、現庁舎でも設けておりまして、新庁舎でも必須と考えています。一方で、ヘリポートとなりますと建物の規模的に設置に課題がありま

すので、現時点においては検討中というところです。

委員

他自治体の様子を見ても、多くが困っているのは会議室だと思います。大きな会議もあれば、2～3 人の打ち合わせ的なものもあるので、そこをどう考えて配置していくかが重要だと思います。

また、食堂についても渋谷区などは周りに民間のレストランやコンビニが多いのでいいのですが、荒川区はそういう状況にないため、食事場所が大事になってくると思います。

現庁舎のような食堂を作らなければ、その分の空間が生まれて他に転用できると思いますが、近隣の足立区などは最上階にレストランを作っています。食堂や会議室の考え方を聞かせてください。

事務局

食堂につきましては、各自治体において作っているところもあれば、無いところもあります。また、コンビニエンスストアについては、多くの自治体が導入しており、今のトレンドであると認識しています。

さらに、アンケートにもありましたカフェについても要望が多く、これらの機能につきましては、十分に検討してまいりたいと考えております。

次に会議室の問題ですが、非常に重要な課題と捉えており、ご指摘のとおり現状も不足しています。新庁舎を整備した自治体を見ましても、少人数の打ち合わせスペースなどは充実させている傾向があります。

区といたしましても、様々な用途に合わせた会議室や打ち合わせスペースを整備していきたいと考えておりますが、そのためには DX の推進や文書削減などスペースを生み出す方策が必要と考えており、そのあたりに努めて、快適な執務環境と必要なスペースを作っていきたいと思っております。

委員

最後に、災害時だけではなく情報の発信地として、ここから都や近隣区との情報交換ということも考えていかなくはならないと思うのですが、その辺の機能の充実についてはどう考えていますか。

事務局

災害対策時の通信機能ですが、現状のシステムよりもレベルの高いものを導入し、連絡体制をしっかりと取れるものを作っていきたいと考えています。

今の庁舎は地下に電源設備がありますので、そういった機能も浸水や地震か

ら守られる位置に配置をし、災害時にしっかり使える状況を整備していきたいと考えております。

委員

環境配慮の説明にあった太陽光発電ですが、これまでの区の状況からすると、例えばふれあい館や学校の屋上に太陽光パネルを設置しても実際に見に行くと形だけで、いざという時に活用できないだろうと感じます。

そこで、屋上面積が限られた中でも、壁面を利用したパネルをとというのは、地震でも落下しないように設置ができるのではないかなど検討する必要があると思います。

また、断熱効果について窓や窓際の断熱はコストがかかるからやりませんと今までずっと言われてきました。新庁舎では全く新しい方法になると思いますから、どの程度考えているのか教えてください。

事務局

太陽光発電のパネル容量ですが、現在は学校で 20kW 程度となっておりますが、当初は室外機設備が屋上設置されていたり、多目的ホールの金属屋根には置けないといった制約があり 5kW となっていました。

新庁舎につきましても配置計画にもよりますが、屋上面積には限りがございます。そういった中で、壁面や壁面以外の活用事例も最近の他自治体には実績があります。

また、太陽光発電方式も、以前はシリコン系がほとんどでしたが、今は化合物系や、国産メーカーで検討されている有機系のペロブスカイトという、シリコン系を用いないものも実証段階に入っていると聞いております。

新庁舎整備にあたっては、これからの設計段階で検討する時間がありますので、屋上だけでなく壁面も用いた方式など、またシリコンにこだわらない検討が必要だと考えてございます。

2 点目の断熱効果の質問につきましては、ふれあい館などでも、開口部について、標準的に複層ガラスを使っています。ZEB のなかでは太陽光発電だけでなく、断熱性を高めることも非常に重要な視点ですので、外壁や開口部といった一体的なパッシブ技術についても詳細に検討していく形になると思っております。

委員

大地震が起きた時に、庁舎に帰宅困難者の方や区民の方が集まってこられることは間違いないと思いますが、機能を分散して、ふれあい館や学校などを使っていけない限りは、この庁舎だけではいくらスペースがあっても足りないと思

います。

災害対策本部だけが大事なのではなく、いざという時には区役所の職員が700～800人寝泊まりしていく、それが一週間以上続く可能性があります。何が大事かという、災害時に働いていただく数百人の職員がどうやって翌日の仕事に向かえるか具体的に考えることが大事だと思います。

また、新庁舎の規模は、38,000 m²が必要だということですが、庁内の各部署が持ち寄って緻密に積み重ねた数値とは思えません。職員のためではなくて、区民も含め、現時点で38,000 m²という数字にこだわってはいけないと思います。35,000になるのか42,000になるのかわかりませんが、緻密な積み重ねをいつまでに実施するのかそのあたりを総論で教えてください。

事務局

災害時の従事する職員の宿泊を含めたスペースの確保という視点は大変重要な課題として、しっかりと検討していきたいと考えております。

38,000 m²につきましては、令和6年度に実施した執務環境調査や職員アンケート、現庁舎の課題、分散した機能をどこまで集約するかも含めて必要な面積を算定した結果です。

今後、設計等に入っていく段階においては、より具体的な機能のあり方など、職員に対しての調査のほか、検討体制をしっかりと組んだ上で検討し、その結果として必要な面積が確定していくものと考えております。

事務局

災害を見据えた機能は、区といたしましても大変重要な機能と考えており、今回は主にハード面を中心に拠点機能・設備という面を記載しております。

この中でも、設計にあたっては、まず災害対策本部の活動場所としてきちっと設計していく。その上で平時については会議室等に転用していくことが重要だと考えています。

現庁舎においては、この部分が反対になってしまい通常の会議室を災害時には本部に転用しているの、使い勝手等に支障も出てしまいます。したがって、新庁舎では、災害活動をメインに据えてその他に転用していく考え方が必要かと思っています。

また、備蓄につきましては、職員が利用する備蓄を3日分確保しているところです。新庁舎においては、必要かつ十分な備蓄スペースを確保する必要があると思っています。

委員

会議室については、現状も職員が苦勞して利用しているので、フェーズフリーの形で、可変式のものを取り入れるなどして、大小の会議室に調整できるなどの設計にしてほしいと思います。

次に食堂についてですが、個人的な意見としては、現庁舎の食堂面積から1日の売り上げを考えると、どれだけ職員の皆さんに貢献できているのかと日々感じています。

カフェというご意見もあるようですが、別の場所である程度まで調理して、食堂では温めて提供するだけにすれば、大きなキッチンスペースもいらないのではないかと感じます。そういった新しい考え方も取り入れながら計画をお願いしたいと思います。

また、太陽光発電パネルについてはペロブスカイトを国も推進しています。日本が誇る新しい技術ということで、ぜひ壁面などに設置してほしいと考えます。ただ、屋上に設置する場合は大きな場所を使ってしまうと永久的にそのスペースが使用できないデメリットも生じると思うので、新しい技術を取り入れつつ設置してもらいたいと思います。

新庁舎は延床面積で38,000㎡が必要となるとの説明がありましたが、配置検討の20ページの部分では、2つの案が示されています。これは目標とする規模が確保できる案となっているか教えてください。そのあたりも考慮された案であれば、私としてはクローズドな感じに見えるB案よりもA案の方がいいのではないかと思います。

事務局

20ページの配置案としてお示ししている2案につきましては、いずれの案も38,000㎡の延床面積が確保できる案となっております。

委員

いつも洗練された資料を作成いただきありがとうございます。

資料の19ページを見ていて、前回委員会でも都電荒川線との動線の話が出たと思いますが、区民会館が敷地内にできると、バスや他の手段で来られる方もいると思います。アプローチとか動線についてはどこを想定されているかお聞きしたいです。

また、周辺施設の集約に関連して、エコセンターはこちらに入ってくるのか教えてください。

事務局

動線についてのご質問ですが、新庁舎の敷地内は区が管理しますが、補助 90 号線は、都が整備、管理していく道路となります。

したがって、新庁舎の敷地内の動線については、それらの状況も踏まえつつ、建物の配置等に合わせて作り込んでいく流れになると考えております。

2 点目のエコセンターにつきましては、環境課を新庁舎に集約する予定です。

委員長

区民アンケートの結果にもあるように、荒川区は都電荒川線のイメージが強く、都電の停留所から区役所への動線については非常に重要な論点だと思います。

前回の議論にもありましたように、都との交渉も重要となってくると認識しています。

委員

資料にまとめていただきかなりイメージが湧いてきたところですが、防災の部分で重要なのは、避難スペースを初めから確保することだと思います。

周辺の木造密集地域における整備計画、住宅の耐震化・不燃化などを今後 7 年～10 年でやっていくと思いますが、新庁舎周辺地の整備も一体的に考える必要について、そのあたりはどう考えていますか。

また、太陽光パネルのペロブスカイトなどの議論がありましたが、新しい技術革新が進む中で、5 年、10 年経つとまた新しい技術に変わってくることが想定されます。高い省エネ性能を確保するためには、ぎりぎりまで検討していく必要があると思います。

これらの新しい技術をどの段階で検討し、導入につなげていくのか教えてください。

事務局

まちづくりの面から説明いたします。

荒川地区の不燃化特区は、新庁舎の計画とも並行しながら、力を入れて進めているところです。UR（独立行政法人都市再生機構）とも協力して周辺の土地を不燃化促進用地ということで、集中的に空き地を取得してきております。

また、主要生活道路についても同様に進んできております。そういう意味では 10 年後の新庁舎ができるまでには東側についても密集の改善は進んでいくものと見込んでおりますし、区として集中的に取り組んでいく予定です。

それから先ほどの動線の話ですが、区の方も補助 90 号線に即して 5m～7m 幅

の緑道を作っており、これについては、都と一緒に進めてきております。

都電の停留所からの動線につきましても、これらの緑道が防災面でも大きく寄与するものと考えております。

事務局

技術革新への対応について、基本構想・基本計画の策定が終わると、基本設計、実施設計となりますが、実施設計が終わるまでに活用できる新たな技術があれば変更等は可能と考えております。

区としてはそれらの技術やトレンドを注視しながら進めていきたいと考えています。

事務局

最新技術という部分で補足ですが、ペロブスカイトという技術がある一方で、シリコン系でも薄膜シリコンという、重さという課題を払拭するような薄い膜にした製品も出てきています。

これは太陽光の例になるのですが、すべての設備につきまして、一度設置してしまうと短期的には変えられない設備になりますので、中長期的にどう使っていくかということもトータルで考え、設計の中で、技術部門や設計事務所、開発メーカー、他自治体の事例なども総合的に考慮し導入設備を決定していきたいと考えています。

委員長

次世代型太陽電池も急速に変化していますし、コストも大きく変わってきています。建設まで時間がありますので、しっかりモニタリングをして、その時点で最適なものを選定するという考え方が必要だと思います。

太陽電池以外に、避難された区民の方々の通信手段の確保もニーズが高いと思います。今では 5G が普及したことによって基地局がすごく小さくなって数が増えています。その結果、ポータブルな基地局というのも開発されているので、避難された方のためにポータブルな基地局を設置して通信を拡大するようなことも考えられると思います。

通信は概ね 10 年単位で移り変わるということが世界的に知られていまして、建設時になるとビヨンド 5G の時代になっている。そうするとおそらく基地局がもっと分散して通信の帯域ももっと増えて、ポータビリティもさらに上がるのかなと思っています。次世代型太陽電池に加えて、区民の方々に欠かせないそういった技術についても同じくモニタリングしてどう導入するのか考えていく必要があると思います。

委員

区でもスターリンク（衛星を活用したインターネット接続）が導入されましたが、私たちの携帯電話でも使えるようになってきています。

ぜひ、新庁舎でもスターリンクの関連設備を充実させていただきたいと思っています。

もう一つ情報共有ですが、ペアガラスを使用した際には熱感知器が使えないそうです。煙感知器だと防災の観点から弱いかなとも思いますが、共有しておきたいと思います。

委員長

スターリンクについては、私もとても有用だと思っています。

友人の教授は、富士山の登山道から滑落される方が相当数いて、滑落してしまうと携帯の通信が外れてしまう。そのため、ポータブルな基地局を持って行って、スターリンクを接続させて通信範囲を拡大し、救助するという実証実験をしたりします。私たちも取り得る手段の幅がかなり広がっているかなと思います。

その点については、本日ご欠席の学識経験者の先生にも、次回以降専門家としての知見から補足いただければと思っています。

委員

私は太陽光業界で働いておりまして 1 つ意見を言わせていただきますと、パネルの導入にあたっては、目的を明確化することが何より大事だと思います。

具体的に常用と非常用の区分でいうと、常用の方は屋上にパネルを置いて日中の電気代を削減するということだと思います。先ほど区の方から、小学校で 20kW という話がありましたが、正直言えば削減効果はそんなにかないかなと思います。ただし、今の屋上に平たく置くような太陽光パネルは 20 年くらい保証がついていますし、保証期間外でも 30 年ぐらまでは発電するだろうと言われています。

他のパネルに取り付ける機械は 10 年単位での交換なので、日々の削減量は少ないけれど塵が積もればということで、節約効果があるという説明はできるのかなと思います。

一方で、非常用の方ですが、そもそもどのぐらいの容量を確保しておかないといけないかということで議論を進めるのがいいかと思います。委員長から話がありましたが、基地局を使うのに何キロワット必要なのかなど考える必要があると思います。

私は太陽光の仕事の前に原子力関係で働いてまして、原子力系だと災害が起きて 48 時間安定して何キロワット出さなきゃいけないというのがあって、これが太陽光だと曇っていると発電しないので、併せて蓄電池を使っていました。鉛蓄電池という、出力性能はあんまり良くないですけど、かなり長持ちするものがあります。太陽光に限らず蓄電池を組み合わせて、普段充電しておいて非常時に使うとかも考えられると思います。

壁面設置はコストが高い傾向があるので、技術革新も加味しながら、情勢を見ながら検討していくのがいいと考えます。

区民の方の意見で「環境考慮はしたいけれどコストは下げて」という話がありましたが、例えば常用だったら「年間何円の削減効果がある」といった説明で区民の皆様も納得できるような話ができるのかなと思います。

また質問になりますが、地上約 38,000 m²で地上 12 から 13 階という話でしたが、日照権とかは大丈夫なのでしょうか。地図を見ると消防署とかサンパールなので、そこまで周辺に民間施設がなく日照の影響はあまりないと思ったのですが、その辺についてご教示ください。

事務局

ご質問の日照権についてですが、日照権を含む関係法令による規制関係を考慮した上で 38,000 m²という算出をしております。

これにより、建物全ての範囲で 12 階まで建つわけではなく、区域によっては階層を減らして建てる必要があります。

委員長

定置型の蓄電池についても技術進歩が著しい分野ですので、実際に建築する直前まで一番いいものを探さることが必要だと思います。

委員

都電荒川線の停留所を東敷地の方に設置できるように頑張っていただけだと思いますが、敷地内での話ということで一つ質問します。

百年に一度のこの計画で、区道 186 号線を廃道するという大胆な提案がなされていますが、私もこの計画ではこのくらいのことはやっていくべきことだと思います。

その中で、防火樹林帯とする予定のところは、道路にしたほうがいいのではと思いました。区としては緑地率を上げていきたいというのがあると思うのですが、緑道の維持や、樹林帯の維持には意外にコストがかかっているのではないかと区民としては心配しております。

一方で都電荒川線沿線のバラの植栽に関しては、大変素晴らしいとっていてコストがかかるのもわかるのですが、今回の計画で防火樹林帯を作ることが果たして良いのかどうか、ご検討いただければと思います。

委員

食堂が地下にあるというお話がありました。新しいものをどこに作るかというのはこれからのお話だと思うのですが、やはり地下にあると若い方たちがわざわざ行くのだろうかと考えてしまいます。大事なのは、「緑に囲まれた」という想定の中で景色に惹かれて人が集まることや、水害時には水害が及ばない階に設置されていて使用可能なことなので、2・3階以上の階に設置していただきたいです。

世田谷のキャロットタワーは上の階で食事ができたりしますが、人が集まればよいというのではなく、何か災害があった時に人が留まる場所として使えるようにと思います。

平常時は区民がカフェとして使えるというところで、二重三重の意味合いを作っていくため、カフェひとつとっても単にお茶を飲むところというだけではなく、人が集まる、ちょっとした話し合いもできる、そういう形に持っていければ無駄のない、皆様が憩えるカフェができるのではないかと思います。

会議室は会議室、カフェはカフェという時代ではなくなってきていますので、最低でも2、3階以上で水が上がっても機能できる空間を考えていただければと思います。

委員長

公園と一体的に整備することを大事にしていますので、ウェルビーイングの概念からも、緑との調和や関係性は非常に重要になってくると思います。

委員

荒川区にある大学として東京都立大学の荒川キャンパスがございます。日頃から荒川区とは様々な協力関係、協定も結んでおります。

都立大学としても、災害時には区と協力し様々な役割を担えると思っておりますので、色々な面で連携していきたいと考えています。

委員長

時間が参りましたので、今日はこの辺でよろしいでしょうか。最後に事務局から今後の日程などについてご説明をお願いいたします。

6. 今後の日程について

7. 閉会